

2020年12月2日

<各位>

ナノキャリア株式会社
代表取締役社長 松山 哲人
(4571 東証マザーズ)
問合せ先 IR担当 土屋 千映子
電話番号 03-3241-0553

siRNAを用いた核酸医薬（PRDM14分子標的）の 乳がんを対象とした第I相臨床試験進捗に関する学会報告について

当社が治験薬提供および資金支援を行い、医師主導治験として国内第I相臨床試験が開始されたPRDM14分子を標的とする核酸医薬「SRN-14/GL2-800」の研究開発の現状について、11/30～12/1に開催された核酸医薬シンポジウム2020において、公益財団法人がん研究会有明病院の高橋俊二先生より発表されましたのでお知らせ致します。

がん研有明病院において、高橋俊二先生を治験責任医師とする医師主導治験がHER2陰性で標準治療がない乳がん患者を対象に、最初の症例への投与が2020年9月に開始されました。本DDS技術*を用いた核酸医薬については、ヒトでの投与は世界初の試みであり、慎重に見守ってまいりましたが、重大な有害事象の発現は認められておらず、治験は順調に進行していることが報告されました。

*ナノ医療イノベーションセンターの片岡一則らが開発したナノキャリアの特許技術

本製剤が標的とするPRDM14分子は、乳がん患者に発現が高いことが知られていますが、低分子医薬品や抗体医薬の開発が極めて難しいターゲットであり、核酸医薬の開発が期待されています。当社は、標準治療が確立されていない領域において、新たな治療法を提供することで、人々の健康と幸福に貢献してまいります。

<発表概要>

核酸医薬による抗がん治療：PRDM14を標的とした医師主導第I相試験
高橋 俊二 先生（公益財団法人がん研究会有明病院）

- 転写因子PRDM14は乳がんの2/3に発現し、がん幹細胞性、造腫瘍性・転移能、抗がん剤耐性に関与
- がん研有明病院において、高橋俊二先生を治験責任医師とする医師主導治験をHER2陰性で標準治療がない乳がん患者を対象に開始され、既に2名の患者に投与された
- 重大な有害事象の発現は認められておらず、治験は順調に進行中

以上